

# 横浜市立東山田小学校

## 平成28年度 学力向上アクションプラン

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○	子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校づくりを目指します。
・	一人ひとりが自分の考えをもち、その考えを伝えたり伝え合ったりする授業を行い、学力を向上させます。
・	一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。
・	健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
・	まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。

#### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実し、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。	① 説明、報告、記録、対話、討論などの言語活動を授業に位置付け、自分の考えを表現・交流する授業を行う。 ② 比較する、分類する、関連付けるなど、思考する活動を適切に位置付け、自分の考えを明確にもつ授業を行う。
担当	学習指導部	

### 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

#### (1) 学力の概要と要因の分析

調査項目全般について、市の平均を上回っている。学習内容はおおむね理解していると判断できる。学習意識は、どの学年も市平均とほぼ同じ状況で安定している。各教科とも各観点で市平均より高い通過率を示しているが、大切なことを聞き取って自分の考えをもち、それを相手に正確に伝える力を育てたい。言語活動を充実させていく必要がある。

#### (2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に、書く能力は市の平均を上回る。言語力を高めることが課題。
- 算数科：全学年で、市平均を上回っているが、図形などもう少し高めたい分野も目立つ。
- 社会科：「知識・理解」「技能」と、どれも市平均を上回っている。
- 理科：「知識・理解」「技能」と、全体的に市平均を上回っている。

#### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

高学年ほど、市平均を上回っている傾向が見られるので、各学年で分析してさらに学力向上を図っていくようにする。生活意識調査では、「普段の学習時間が長い」という回答割合が高い。また、「学習がわかりやすい」「楽しい」といった肯定的な回答が多い。朝食の摂取率が高いが、高学年は就寝時刻・起床時刻ともに遅い傾向にある。

### 3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

#### 2 学年

- 毎日の取組を続けて実施し、基礎基本の定着を図っていく。また、
- 音読カードや読書の時間を有効に利用して読む能力が身に付くようにする。
- 算数では、さまざまな図形の形にふれる機会を通し、図形に対する感覚を豊かにさせる。

#### 3 学年

- 算数では、様々な取組により基礎基本が定着し、数学的な考え方が身に付いてきたと考えられる。知識を活用する力もついている。今後も日々の取組を継続し、バランスよく取り入れていきたい。

#### 4 学年

- 算数については、筋道を立てて考えを構成する経験を深めていく必要がある。
- 他教科についても授業の内容を吟味し、丁寧な指導をしていく必要がある。

#### 5 学年

- 全教科で基礎・基本が定着してきているので、今後は活用する力を高めていく。
- 
- 算数の技能に課題があるので、知識を活用するためにも反復的な活動を取り入れることで、計算力を高めていく。

#### 6 学年

- 国語の読む・書く力は安定しているが、言語力については課題が見られる。スキル等の時間を使った漢字学習だけではなく、様々な強化学習を通して日常的に言語力・語彙力をつける学習を行ってきたい。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、校外学習や体験的学習などから言語活動の充実を図り、コミュニケーション力を高めるような学習計画を立てる。
- 子どもの発達段階に応じて、児童一人ひとりのよさを伸ばして自己有用感を高める。
- 学級での集団生活で身に付けた生活ルールを、交流級や学年で実行できるように指導していく。